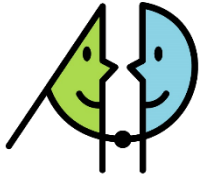


特定非営利活動法人あきたパートナーシップ



ニュースレター

Vol. 149

■令和 8 年度通常総会開催

6 月 1 日（月）、パーティーギャラリー・イヤタカにて令和 8 年度通常総会を開催しました。正会員数 36 名のうち 31 名（委任状の提出 11 名）が出席し、令和 7 年度の事業報告、決算報告及び監査報告、令和 8 年度の事業計画案、予算案について審議しました。

初めに畠山理事長から、令和 8 年 4 月 1 日から令和 13 年 3 月 31 日まで（5 年間）、当法人が遊学舎の指定管理者として決まったことが報告されました。



～畠山理事長あいさつ（要旨）～

当法人は、2002（平成14）年5月に設立され、25年目を迎えます。設立にあたっては、多くの関係者の熱意と尽力がありました。特に、当時中心となって法人設立に取り組まれたみなさまの思いと努力に、改めて深い感謝を申し上げます。

近年は、自然災害の頻発や国際情勢の不安定化など、私たちを取り巻く環境が大きく変化しています。こうした時代だからこそ、市民活動がどのような役割を果たし、地域の課題解決に取り組んでいくのか、その力が問われていると感じています。

そのような中、県内の市民活動を支援する中間支援組織として、みなさまとともに考え、行動し、活動を支える環境づくりを進めていくことが私たちの役割です。スタッフ一同、気持ちを新たに組み立ててまいります。

これからの時代は、これまでのやり方を踏襲するだけではなく、自ら新しい発想を生み出し、挑戦を重ねていくことが求められます。今後の5年間は、そのための大切な節目となる期間です。みなさまと力を合わせながら、新たな一步を築いていきたいと考えています。

今後の法人運営と活動の充実に向け、率直なご意見を賜れば幸いです。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



会員からは災害支援分野への事業展開について、従来の NPO 支援事業とのバランスを大切にしながら取り組んでほしいとの要望が寄せられました。また、東日本大震災被災地支援の取り組みや SAVE JAPAN プロジェクトについても質問等が出され、活発な意見交換が行われました。その後、各議案は原案どおり承認されました。

総会後に行われた研修会の様子

世界遺産・白神山地を訪れる人々に、その魅力をわかりやすく伝える自然案内人として活動している、白神山地世界遺産センター藤里館 自然アドバイザーの白鳥 万里さんを講師にお迎えし、「白神山地の魅力と地域での活動について」と題してご講演いただきました。



講演では、秋田県と青森県にまたがる白神山地の広大なブナの原生林や生態系全体が高く評価され世界自然遺産に登録されていることや、ブナの実が動物たちの命を支え、リス・ネズミ、クマなどの営みが次世代の森を育むなど、一見何気ない自然の中にも、多様な生き物が互いに支え合う豊かな循環があることを、写真や動画を交えながら分かりやすく解説されました。

さらに、植生調査やブナの実の豊凶調査といった継続的な調査研究に加え、自然観察会やオンライン授業、地元の子どもたちが案内役を務めるジュニアボランティアガイドなど、自然の魅力を広く伝えるための普及・環境教育活動についても紹介されました。

白鳥さんは、「白神山地は特別な景観だけでなく、日本本来の豊かな森が今も『普通に』残されていること自体に大きな価値がある」と説明し、その価値や魅力を多くの人に知ってもらい、白神山地や地域に関わる人を増やしていくことが、将来にわたる自然環境の保全につながると話されました。

講演を通して、白神山地の豊かな自然が多様な生き物のつながりによって支えられていることや、その価値を未来へ引き継ぐための調査・普及活動の重要性について理解を深める機会となりました。

■遊学舎指定管理 新たな5年間でスタートしました■

昨年10月に開催された指定管理者候補者選定委員会を経て、当法人は令和8年4月から令和13年3月までの5年間、遊学舎の指定管理者として指定を受けました。



この4月からは、遊学舎の休館日・開館時間が変更され、休館日は毎週月曜日※、開館時間は平日が9時から21時まで、日曜日・祝日は9時から18時までになりました。

(※月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日が休館)

毎週の休館日導入により利用者の減少が心配されましたが、現在のところ利用者数は昨年度とほぼ同水準で推移しています。また、年間利用者数の目標は、社会情勢や利用状況を踏まえ、これまでの12万人から10万人へ見直しました。一方で、施設運営においては利用者満足度90%以上を目標に掲げ、より利用しやすい施設づくりに努めています。

さらに、これまで県北（大館市）、県央（遊学舎）、県南（横手市）に設置されていた市民活動サポートセンターは、遊学舎へ機能を集約し、県北・県南は支部として活動する体制となりました。

これに伴い、NPO 支援講座は会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催するほか、市民活動情報誌「かだれ」も県内全域を対象に発行・発送しています。支援の対象地域は広がりましたが、これまでと変わらず、それぞれの団体の状況に寄り添いながら、きめ細かなサポートを行っていきます。



～災害中間支援組織「災害支援ネットワークあきた（DN あきた）」設立について～

近年、各地で自然災害が頻発し、その被害は深刻化しています。

災害時に迅速かつ効果的な支援を行うためには、行政や社会福祉協議会、NPO 等、災害支援に関わる多様な主体が連携することが不可欠です。

当法人では、災害中間支援組織「災害支援ネットワークあきた（DN あきた）」を設立し、災害時における情報共有や関係団体の活動調整等を担います。それに伴い、秋田県、秋田県社会福祉協議会、当法人の 3 者で、被災者支援活動に関する連携協定を締結しました。

今後は、団体間のネットワークを強化し、被災直後から生活再建まで、切れ目のない支援に取り組んでまいります。



協定締結式の様子



事務局は遊学舎内にあります

【活動報告①】 2026年度トヨタ財団『国内助成プログラム・研究助成プログラム公募説明会 in あきた』

4月18日（土）、遊学舎をメイン会場に、トヨタ財団「国内助成プログラム・研究助成プログラム」公募説明会を開催しました。

説明会では、トヨタ財団の担当者から各プログラムの概要や応募要件、審査で重視されるポイントなどについて説明がありました。

また昨年度、国内助成プログラムに採択された「生きる根っこを育てようチーム」（岩手県紫波町）のみなさまからは、助成事業の内容や活動の成果についてご紹介いただきました。



当日は、メイン会場、サテライト会場（大館市）、オンラインを合わせて

38名が参加。質疑応答では多くの質問が寄せられ、担当者は一つひとつ丁寧に答え、アドバイスしました。

トヨタ財団では、「社会的な意義が大きいこと」「社会の課題を先取りすること」「未来志向であること」「持続可能性・発展可能性があること」「波及効果が期待できること」などを重視して助成先を選定しています。

説明会終了後には、個別相談を希望する団体も複数ありました。今回の説明会をきっかけに、県内から意欲的なプロジェクトが数多く応募され、採択につながることを期待しています。

審査結果の発表は9月下旬の予定です。

【活動報告②】SAVE JAPAN プロジェクト「八郎潟・八郎湖のお宝探検隊！」

SAVE JAPAN プロジェクトとは、全国各地の生物多様性の保全に取り組む環境 NPO と NPO 支援センター、地域のみなさま、損保ジャパン、日本 NPO センターが連携し、全国各地の「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトです。

当法人では、昨年度から地域の環境団体である NPO 法人はちろうプロジェクト（以下：はちプロ）と、干拓により生物多様性が減少した八郎湖で生き物のにぎわい再生と生物多様性への関心向上を目的に、調査や観察を行っています。

今年度は、5月30日（土）に「八郎潟・八郎湖のお宝探検隊！」を開催しました。参加者は親子や大学生など35名。当日は、はちプロの担当者から八郎湖の現在の状況などについて説明を受けた後、胴長を着用して八郎湖に入り、生き物の採取を行いました。その後、各所で採取した生き物を顕微鏡で観察。普段は目にするのできない小さな生き物の姿に驚き、ミジンコが果たす役割を知ること、生き物同士のつながりについて楽しみながら学ぶ一日になりました。



※次回は、8月2日（日）「八郎湖へとつながる、馬場目川の生き物探検隊！」です。

＊小さな拠点づくりと地域コミュニティ食堂について＊

令和4年度から6年度までは県民提案型協働創出事業、令和7年度は遊学舎企画事業として実施してきた「小さな拠点づくりと地域コミュニティ食堂の開催」は、今年度から法人の自主事業として継続しています。

「地域コミュニティ食堂+学びの場」は、月に1～2回、孤食になりがちな子どもや高齢者などが安心して集い、気軽に過ごせる地域の居場所として、食事の提供や小学生への学習支援を行っています。

毎月の開催を楽しみにしてくださるご家族や高齢者の方も増え、食事やおしゃべりをしたり、子どもたちが食後に元気いっぱい遊んだりする様子が見られるようになりました。



また、この活動に賛同し、野菜などの食材をご提供くださる方もおります。多くの方々に支えられながら、誰もが安心して過ごすことのできる地域の居場所づくりの大切さを改めて実感しています。

会員のみなさまには、日頃より温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
活動をより良いものにしていくため、事業等につきまして、お気づきの点やご提案などがございましたら、ぜひお寄せください。みなさまからのお声を大切にしながら、今後の活動に活かしてまいりたいと考えております。
夏本番を迎えるこの時期、どうぞ体調を崩されませんよう、ご自愛ください。
今後とも、活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。